

(用紙が足りない場合はA4版縦の用紙(白紙)を使用し、ページ数を入れてください。)

1 原 著

1-1 欧文原著

RNA-dependent DNA Polymerase (RT) Activity of Bacterial DNA Polymeras

Bulletin of the Osaka Medical College 51(1):35-41,2005

Detection of dengue virus nonstructural protein 1(NS1)by using ELISA

as a useful laboratory diagnostic method for dengue virus infection of international travelers

Meng Ling Moi 1,Tsutomu Omatsu ,Shigeru Tajima ,Chang-Kweng Lim , Akira Kotaki , Makiko Ikeda ,
Fumiue Harada , Mikako Ito , Masayuki Saijo , Ichiro Kurane , Tomohiko Takasaki

PMID:23577865

1-2 和文原著

TBM linearなIgG沈着を認めた半月体形成膜性腎炎を伴うmicroscopic PNの1例

著者：原田文植 (大阪府済生会 中津病院), 梅基光良 (大阪府済生会 中津病院), 旗智幸政 (大阪府済生会 中津病院), 越川真男 (大阪府済生会 中津病院), 田中敬雄 (大阪府済生会 中津病院), 後藤昌久 (大阪府済生会 中津病院), 桑原隆 (大阪府済生会 中津病院)

資料：日本腎臓学会誌 2000

細菌に対する逆転写酵素阻害剤の有効性

著者：原田文植 (大阪医大 医 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 医 微生物), 中野隆史 (大阪医大 医 微生物), 森田智津子 (大阪医大 医 微生物), 呉紅 (大阪医大 医 微生物), 谷口博理 (大阪医大 医 微生物)

資料：日本細菌学雑誌 2003

HIV逆転写酵素阻害剤の細菌に与える影響と抗菌剤としての可能性

著者：原田文植 (大阪医大 微生物学), 中野隆史 (大阪医大 微生物学), 河野武弘 (大阪医大 微生物学), 谷口博理 (大阪医大 微生物学), 佐野浩一 (大阪医大 微生物学)

資料：感染症学雑誌 2004

細菌の逆転写酵素活性阻止抗体の特異性

著者：原田文植 (大阪医大 微生物), 中野隆史 (大阪医大 微生物), 谷口博理 (大阪医大 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 微生物)

資料：日本細菌学雑誌 2004

日本人デング熱患者における抗ウエストナイルウイルス交差中和抗体に関する検討

著者：原田文植 (感染症研), 高崎智彦 (感染症研), 高木弘隆 (感染症研), 林昌宏 (感染症研), 伊藤美佳子 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：感染症学雑誌 2006

H.pylori CagA輸送経路の形態学的解析

著者：呉紅 (大阪医大 予防 社会医学), 中野隆史 (大阪医大 予防 社会医学), 森田智津子 (大阪医大 予防 社会医学), 原田文植 (大阪医大 予防 社会医学), 谷口博理 (大阪医大 予防 社会医学), 佐野浩一 (大阪医大 予防 社会医学)

資料：日本細菌学雑誌 2005

フラビウイルスIgM抗体が偽陽性となった熱帯熱マラリアの1例

著者：加藤康幸 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 羽田野義郎 (国立国際医療セ エイズ治療・研究開発セ), 水野泰孝 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 上田晃弘 (国立国際医療セ エイズ治療・研究開発セ), 源河いくみ (国立国際医療セ エイズ治療・研究開発セ), 川名明彦 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 金川修造 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 原田文植 (感染症研), 高崎智彦 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研), 狩野繁之 (国立国際医療セ 研), 岡慎一 (国立国際医療セ エイズ治療・研究開発セ), 木村哲 (国立国際医療セ エイズ治療・研究開発セ), 工藤宏一郎 (国立国際医療セ 国際疾病セ)

資料：感染症学雑誌 2006

節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 デング熱患者における尿および唾液中のデングウイルス

遺伝子の検出

著者：高崎智彦 (感染症研), 水野泰孝 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 加藤康幸 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 西村聖美 (厚生労働省 成田空港検疫所), 小滝徹 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 平成 18 年度総括・分担研究報告書 2007

動物由来物質を排除したワクチン及び組織培養インフルエンザワクチンの製造方法の開発研究 無血清培地を用いた日本脳炎ワクチンの製造法に関する研究-無血清培地適応Vero細胞の樹立-

著者：高崎智彦 (感染症研), 原田文植 (感染症研)

資料：動物由来物質を排除したワクチン及び組織培養インフルエンザワクチンの製造方法の開発研究 平成 17 年度 総括・分担研究報告書 2006

節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 デングウイルス感染の抗体検査に関する研究

著者：名和優 (埼玉医大), 町田早苗 (埼玉医大), 高崎智彦 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研), 水野泰孝 (国立国際医療セ), 加藤康幸 (国立国際医療セ)

資料：節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 平成 18 年度総括・分担研究報告書 2007

わが国の検疫所において行う海外流行地の赤痢菌サーベイランスの可能性

著者：谷口博理 (大阪医大 微生物), 中野隆史 (大阪医大 微生物), 片山友子 (関空検疫所), 原田文植 (大阪医大 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 微生物)

資料：日本細菌学雑誌 2004

尿および唾液中よりデングウイルス遺伝子が検出された1例

著者：水野泰孝 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 加藤康幸 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 原田文植 (感染症研), 工藤宏一郎 (国立国際医療セ 国際疾病セ), 高崎智彦 (感染症研), 倉根一郎 (国立国際医療セ 国際疾病セ)

資料：感染症学雑誌 2007

節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究 2005年度輸入デングウイルス感染症の検査・診断

著者：高崎智彦 (感染症研), 西村聖美 (成田空港検疫所), 古川徹也 (成田空港検疫所), 河合誠義 (成田空港検疫所), 伊藤美佳子 (感染症研), 小滝徹 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究 平成 17 年度 研究報告書 2006

アジアで流行している感染症の我が国への侵入監視に関する研究 ウイルス 2006年度輸入デングウイルス感染症病原体、血清診断

著者：高崎智彦 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 小滝徹 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 林昌宏 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：アジアで流行している感染症の我が国への侵入監視に関する研究 平成 18 年度総合研究報告書 2007

菌体外環境の違いによるHelicobacter pylori CagA分泌調節機構の解析

著者：呉紅 (大阪医大 微生物), 中野隆史 (大阪医大 微生物), 森田智津子 (大阪医大 微生物), 原田文植 (大阪医大 微生物), 谷口博理 (大阪医大 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 微生物)

資料：日本細菌学雑誌 2004

水道水電気分解による遊離塩素の再活性化と殺菌への応用

著者：中嶋則人 (大阪医大 微生物), 中野隆史 (大阪医大 微生物), 原田文植 (大阪医大 微生物), 谷口博理 (大阪医大 微生物), 横山勲 (大阪医大 微生物), 広瀬潤 (大阪医大 微生物), 大黒恵理子 (大阪医大 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 微生物)

資料：感染症学雑誌 2004

節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 デング熱患者における尿および唾液中のデングウイルス

遺伝子検出およびチクングニヤウイルス感染症実験室診断法の開発

著者：高崎智彦 (感染症研), 小滝徹 (感染症研), 平山隆則 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研), 水野泰孝 (国立国際医療セ), 竹下望 (国立国際医療セ), 加藤康幸 (国立国際医療セ)

資料：節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 平成 18-20 年度 総合研究報告書 2009

節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 デングウイルス感染の抗体検視に関する研究:台湾での

デング感染診断におけるIgA抗体捕捉ELISAの評価

著者：名和優 (埼玉医大), 町田早苗 (埼玉医大), 高崎智彦 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 原田文植 (感染症研), HARN Ming-Rong (高雄市疾病管理セ), 倉根一郎 (感染症研)

資料：節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 平成 19 年度総括・分担研究報告書 2008

ウエストナイルウイルス侵入に備えての診断,予防対策への基盤的研究 日本人デング熱患者における抗ウ

エストナイルウイルス交差抗体に関する検討

著者：高崎智彦 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：ウエストナイルウイルス侵入に備えての診断、予防対策への基盤的研究 平成 18 年度 総括研究報告書 2007

アジアで流行している感染症の我が国への侵入監視に関する研究 ウイルス 2006年度輸入デングウイルス

ス感染症の疫学

著者：林昌宏 (感染症研), 田島茂 (感染症研), 小滝徹 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 高崎智彦 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：アジアで流行している感染症の我が国への侵入監視に関する研究 平成 18 年度総合研究報告書 2007

節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究 輸入デングウイルス

感染症の検査・診断に関する研究

著者：高崎智彦 (感染症研), 西村聖美 (成田空港検疫所), 鈴木尚文 (成田空港検疫所), 佐藤之義 (成田空港検疫所), 古川徹也 (成田空港検疫所), 三輪俊樹 (成田空港検疫所), 高橋正樹 (成田空港検疫所), 松本泰治 (成田空港検疫所), 横田勉 (成田空港検疫所), 河合誠義 (成田空港検疫所), 伊藤美佳子 (感染症研), 小滝徹 (感染症研), 原田文植 (感染症研), 倉根一郎 (感染症研)

資料：節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立、疫学及びワクチン開発に関する研究 平成 15-17 年度 総合研究報告書 2006

菌体外環境を変化させた際のHelicobacter pylori ureaseの局在移動

著者：呉紅 (大阪医大 微生物), 中野隆史 (大阪医大 微生物), 後藤俊幸 (京都大学医療技短大), 森田智津子 (大阪医大 微生物), 原田文植 (大阪医大 微生物), 佐野浩一 (大阪医大 微生物)

資料：日本細菌学雑誌 2002

初診時慢性腎不全であったChinese herbs nephropathy(CHN)と思われる3症例

著者：仁木稔 (大阪府済生会 中津病院), 田中敬雄 (大阪府済生会 中津病院), 原田文植 (大阪府済生会 中津病院), 梅基光弘 (大阪府済生会 中津病院), 旗智幸政 (大阪府済生会 中津病院), 後藤昌久 (大阪府済生会 中津病院), 上田恵 (大阪府済生会 中津病院), 桑原隆 (大阪府済生会 中津病院)

資料：日本腎臓学会誌 2000

2 著 書

2-1 欧文著書

Evaluation of disinfective potential of reactivated free chlorine in pooled tap water by electrolysis.

著者： NAKAJIMA N (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), NAKANO T (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), HARADA F (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), TANIGUCHI H (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), YOKOYAMA I (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), HIROSE J (SANYO Electric Co., Ltd., Shiga, JPN), DAIKOKU E (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN), SANO K (Osaka Medical Coll., Osaka, JPN)

資料： Journal of Microbiological Methods 2004

2-2 和文著書

(主) 狂犬病・デング熱・マラリア・コクシジオイデス症 海外で罹る危険性のある感染症 海外で罹

る危険性のある感染症update(2)デング熱・デング出血熱

著者： 原田文植 (感染症研), 高崎智彦 (感染症研)

資料： 公衆衛生 2007

3 総 説

3-1 欧文総説

3-2 和文総説

4 特 許

5 学会発表

2000 年 日本腎臓病学会

TBM linearなIgG沈着を認めた半月体形成膜性腎炎を伴うmicroscopic PNの1例

2003 年 日本細菌学会

細菌に対する逆転写酵素阻害剤の有効性

2004 年 感染症学会

HIV逆転写酵素阻害剤の細菌に与える影響と抗菌剤としての可能性

2004 年 日本細菌学会

細菌の逆転写酵素活性阻止抗体の特異性

2006 年 感染症学会

日本人デング熱患者における抗ウエストナイルウイルス交差中和抗体に関する検討

6 その他